

# 荏原病院産婦人科 新型コロナウイルス Q&A

## 【妊婦さんご本人について】

### Q1:妊婦の感染予防はどんなことをしたらよいですか？

一般的な感染予防をおこなってください。

3密を避け、手洗い、手指消毒、マスク着用を徹底してください。

また、不要不急の外出を避けることも大切です。

### Q2:妊婦は予防接種を受けたほうがよいですか？

新型コロナウイルスワクチンは、妊婦に対して短期的安全性を示す情報が出つつあります。

長期的な副反応や、胎児および出生児への安全性に関しては不明ですが、現時点では、世界的に接種のメリットがリスクを上回ると考えられています。

接種の時期は、妊娠中を通していつでも大丈夫とされています。

肥満や糖尿病の持病がある妊婦さんは、重症化しやすいリスクがあるため、積極的に接種を考えてみてください。

### Q3:家族が濃厚接触者となっていました。どうしたらよいですか？

新型コロナウイルス感染は、家庭内感染が多いとされています。

妊婦さんが感染することがないように、家庭内で濃厚接触者の方を隔離していただき、接触を最小限にとどめましょう。

家庭内でもマスクは着用してください。

### Q4:妊婦が新型コロナウイルスに感染した場合、重症化しやすいですか？

妊娠中に新型コロナウイルスに感染しても、基礎疾患を持たない場合、その経過は同年代の妊娠していない女性と変わらないとされています。ただし、新型コロナウイルスに限らず、妊婦が呼吸器感染症にかかった場合には、妊娠していない時に比べ、特に妊娠後期において重症化する可能性があります。

高齢での妊娠、肥満、高血圧、糖尿病などが新型コロナウイルス感染症の重症化のリスク因子であるという報告もあり、このような背景を持つ妊婦の方は、特に感染予防に注意してください。

### Q5:職場で働くことが不安です。どうしたらよいですか？

働く妊婦の方は、職場の作業内容等によっては、感染について大きな不安やストレスを抱える場合があります。感染そのものだけでなく、これによる「不安やストレス」を妊婦の方が回避し

たいと思うのは当然のことです。

そこで、新たに、事業主の新型コロナウイルス感染症に関する妊婦の方への対応(※)を法的義務としました(令和2年5月7日～令和4年1月31日)。

具体的には、こうした不安やストレスが、母体または胎児の健康に影響があると、主治医や助産師から指導を受ける場合があります。働く妊婦の方は、その指導内容を事業主に申し出た場合、事業主は、この指導に基づいて必要な措置を講じなければなりません。例えば、「感染のおそれが低い作業に転換させる」、「在宅勤務や休業など、出勤について制限する」といった措置が考えられます。

主治医等からの指導については、その指導事項を的確に伝えるため「母健連絡カード」というものを作っていますので、こちらを主治医等にも書いてもらうことで、適切な措置を受けられることとなります。

もともと、働く妊婦の方は、新型コロナウイルスとは関係なく、主治医等の指導に基づき、妊娠中の通勤緩和や休憩、あるいは妊娠に伴う症状などに応じて妊娠中の作業の制限、勤務時間の短縮、休業等、様々な措置を受けられる可能性があります。

また、妊婦の方も含めたすべての方が、テレワークや時差通勤など多様な働き方が可能となるよう、政府として要請を行っております。

これを機に、事業主の方は、妊婦の方の働き方をもう一度見つめ直していただき、働く妊婦の方は母体と胎児の健康を守っていただければと思います。

(※)男女雇用機会均等法第13条に基づく母性健康管理措置。

## 【赤ちゃんへの影響について】

**Q1:妊娠中に母親が新型コロナウイルスに感染した場合、胎児にどのような影響がありますか？**

子宮内で胎児が感染したことを示唆する報告も少数ながら存在しますが、新型コロナウイルスに感染した妊婦から胎児への感染はまれだと考えられています。

また、妊娠初期または中期に新型コロナウイルスに感染した場合に、ウイルスが原因で胎児に先天異常が引き起こされる可能性は低いとされています。

米国では妊娠中に妊婦が新型コロナウイルスに感染した場合、非感染の妊婦と比較して、早産になりやすいという報告もあります。

我が国でも、新型コロナウイルス感染症の母子への影響を把握するため、新型コロナウイルス感染症に罹患した妊産婦や小児の罹患状況などの調査研究を行っています(令和2年度厚生労働科学特別研究事業)。

**Q2:母親が新型コロナウイルスに感染した場合、母乳や授乳を介して乳児が感染することはありますか？**

母乳を介して新型コロナウイルスが乳児に感染するリスクは低いと考えられています。しかし、母乳中に検出されたとする報告もあります。また、授乳時には、接触・飛まつ感染のリスクがあります。従って母乳栄養を希望される際は、母乳を介した感染や接触・飛沫感染のリスクについて、ご家族や医療機関の医師等と十分に相談の上、授乳方法や時期をご判断ください。

授乳に関しては、以下の方法があります。

1. 直接母乳:授乳前の確実な手洗いと消毒、マスクを着用して直接授乳をする。
2. 搾乳 : 確実な手洗い、消毒後に搾乳をし、感染していない介護者による授乳を行う。(1.より接触・飛まつ感染のリスクが低く、あとで直接母乳に戻りやすい利点がある)
3. 人工栄養:(母乳の利点と授乳のリスクを説明した上で)人工乳を授乳する。

荏原病院では現在、母乳栄養を希望されたお母さまが、新型コロナウイルス陽性もしくは濃厚接触者となった場合、感染管理上母児離室となるため直接授乳はできませんが、搾乳を運搬し、赤ちゃんに飲ませることは可能です。

**Q3:新生児が新型コロナウイルスに感染した場合、重症化しやすいですか？**

新生児が新型コロナウイルスに感染した事例が少なく、他の様々な要因により状態の変化が起こりえるので、一概に判断できませんが、重症化するのはいずれだとされています。海外では、先天性心疾患など基礎疾患のある新生児が新型コロナウイルスに感染し、重症化した事例が少数ながら報告されていますが、殆どの児は回復しております。

## 【荏原病院について】

### Q1:妊婦健診は通常通り実施していますか？

妊婦健診には、妊婦さんの健康状態、妊娠週数等によって推奨される受診間隔があります。現在荏原病院では、経過が問題ない妊婦さんに関しては、産婦人科医とご相談の上、妊婦健診の間隔をあけることを可能としています。

妊婦健診は、妊婦と胎児の健康のために非常に重要です。自分で判断せず、産婦人科医の指示に従って受診してください。

### Q2:妊婦健診や産後の健診に、子供や夫を連れて行ってもいいですか？

妊婦や胎児の命を守ることは、社会にとって非常に重要なことです。

病院には、多くの妊婦さんが集まります。従って、病院の中の妊婦さん同士で新型コロナウイルスの感染が広がってしまう、ということを極力避ける必要があります。

外部からウイルスを持ち込んで感染が拡大しないよう、荏原病院では外来通院も原則妊婦さんお一人での来院をお願いしています。

感染拡大予防にご協力をお願いいたします。

### Q3:立ち会い分娩はできますか？

外部からのウイルスの持ち込みで感染が拡大しないよう、荏原病院では現在立ち会い分娩を中止させていただいています。妊婦さんやご家族の方にはご不便をおかけしますが、感染拡大予防にご協力をお願いいたします。

### Q4:入院中の面会はできますか？

Q3と同様の理由のため、現在入院中の面会も原則禁止とさせていただいています。

入院生活に必要なお荷物の受け渡しがある際は、面会受付をしていただき、スタッフ経由でお渡ししています。また、その回数も最小限でお願いしています。

妊婦さんやご家族の方にはご不便をおかけしますが、感染拡大予防にご協力をお願いいたします。

### Q5:臨月に新型コロナウイルスに感染した、また濃厚接触者となってしまうたら、分娩はどうなりますか？

経膈分娩の際には、大きな声が出たり、マスク着用ができない状況となることが多くなるため、エアロゾルが飛散し、院内感染を招く恐れがあります。

そのため、荏原病院では、37週以降に新型コロナウイルス陽性や、濃厚接触者となった場合には、原則帝王切開での出産とさせていただいています。

新型コロナウイルス陽性や濃厚接触者となり帝王切開となった場合、感染症病棟にご入院して

いただきます。(濃厚接触者の方が感染者と同部屋になることはありません)  
赤ちゃんとは離ればなれにはなりますが、毎日リモートで面会ができます。  
また、助産師がほぼ毎日訪問し、母乳のケアや、お母さんの不安に答えるようにしています。

**Q6:感染症指定病院だそうです、外来の待合室や検査などで新型コロナウイルス陽性者と一緒になりませんか？**

荏原病院では、現在、新型コロナウイルス感染が疑われる患者様には、発熱外来を受診していただいているため、出入り口や診察スペースなども分けております。

検査なども時間帯を分けて行っておりますので、一般の外来受診された方と新型コロナウイルス陽性者が一緒になることはありません。

また、入院されている感染者の方は、病室内で過ごしていただいておりますので、外来や売店などを歩いていることはありません。

上記の Q&A は 2021 年 7 月 1 日現在の情報をもとに作成されたものです。

以下の WEB サイトの情報をもとに作成しています。

新型コロナウイルスに関する情報は、世界的に日々更新されていきます。

最新の情報や、詳しくお知りになりたい方は、以下をご覧ください。

日本産科婦人科学会ホームページ

[http://www.jsog.or.jp/modules/jsogpolicy/index.php?content\\_id=10](http://www.jsog.or.jp/modules/jsogpolicy/index.php?content_id=10)

厚生労働省ホームページ

[https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou\\_iryuu/dengue\\_fever\\_qa\\_00001.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/dengue_fever_qa_00001.html)

日本ラクテーションコンサルタント学会ホームページ

[https://jalc-net.jp/covid19\\_jalc.html](https://jalc-net.jp/covid19_jalc.html)